

特 集 I

性的指向と性自認の人口学の構築（その1）

高年齢層の性的指向・性自認のあり方を量的調査で いかに捉えるか

—認知インタビューの分析結果から¹⁾—

平森大規ⁱ⁾・小山泰代ⁱⁱ⁾・釜野さおりⁱⁱⁱ⁾・千年よしみⁱⁱ⁾・
布施香奈ⁱⁱ⁾・三部倫子^{iv)}・武内今日子^{v)}・申知燕^{vi)}・岩本健良^{vii)}

近年、性的マイノリティに対する関心の高まりを受けて、量的調査における性的指向・性自認のあり方（SOGI）のたずね方に関する方法論的研究が増えている。しかしながら、SOGIに関する知識をあまりもたない高年齢層に注目した研究は限られている。そこで本研究では、高年齢層が量的調査のSOGI設問をどのように理解し、回答しているかを検討すべく、60歳以上の18名を対象に認知インタビューを実施した。高年齢層はSOGIに関わる用語を十分に理解していないことが多いものの、そのことが原因で回答を誤ることは少ないことがわかった。また、高年齢層特有の現象として、現在誰に対しても性愛感情を抱いていないシスジェンダー異性愛回答者が、性的指向アイデンティティとして他者に性愛感情を抱かないアセクシュアルを選択する可能性があることが明らかになった。全体として、認知インタビューは量的調査における設問改善にあたって有用であることが示された。

キーワード：性的指向・性自認のあり方（SOGI）、高年齢層、測定、認知インタビュー、調査方法論における認知的側面（CASM）

i) 法政大学

ii) 国立社会保障・人口問題研究所

iii) 早稲田大学

iv) 奈良女子大学

v) 関西学院大学

vi) お茶の水女子大学

vii) (元) 金沢大学

1) 本論文は、日本人口学会第74回大会において発表した報告「社会調査における高年齢層のSOGIの捉え方」（小山泰代）および、ドイツ日本研究所主催の国際ワークショップにおいて発表した報告「Methodological Study to Quantitatively Capture Intimate Relationships and Singlehood beyond Cisgender Heterosexual Individuals: Findings from Cognitive Interviews with Older Adults」（平森大規）をもとにしたものである。本研究は、JSPS 科研費 JP21H04407「性的指向と性自認の人口学の構築——全国無作為抽出調査の実施」の助成を受けた。認知インタビューに参加して下さった18名および実際の調査に先立つ予行演習に協力して下さったイリノイ大学アーバナ・シャンペーン校地理学・地理情報科学研究科の加藤慶氏と愛媛大学大学院理工学研究科の大西基也氏に感謝申し上げます。なお、本論文の共著者である岩本健良氏は、2024年11月に急逝されました。本研究は、岩本氏の多大な尽力により完成することができました。ここに深い感謝の意を表すとともに、心よりご冥福をお祈り申し上げます。

I. はじめに

量的調査を実施するにあたって、調査票の適切な設計が重要であることはよく知られている。日本で出版されている社会調査法の教科書においても、調査票の構成や質問文・選択肢の言い回しについて詳細に解説しているものが多い（盛山 2004, 轟ほか編 2021）。ところが、これらの教科書では一度作成された調査票を系統的に評価する手法について詳細に取り上げられることが少なく、日本においては一度作成した調査票を実査前に改善する手法が十分に活用されていないことが推測される。一方、アメリカをはじめとする諸外国で出版されている社会調査法の教科書では、実査の前に調査票案を体系的に評価する予備調査を行うことの必要性が強調されている。こういった評価を行う際の手法の1つとして多くの教科書で取り上げられているのが認知インタビュー（cognitive interviewing）²⁾である（Carr et al. 2021: 342, Neuman 2011: 350-1）。認知インタビューとは、「研究者が調査票の理解と改善を目的に行う予備調査である。具体的には、調査票の回答者に対して回答に至るまでの思考プロセスについてインタビューを行う、または、回答者が調査票に回答する際に、自らの思考を声に出しながら回答することを求める、といった手法」（Neuman 2011: 350）であり、アメリカ、カナダ、イギリス、ドイツ、スウェーデンなどの政府統計局、アメリカ全国世論調査センター（National Opinion Research Center）などの研究所や大学をはじめとする社会調査機関で調査実施時のルーティーンとして標準的に使用されている（Willis 2005）。

こうした認知インタビューの実施が特に効果的である分野として、無作為抽出調査をはじめとする量的調査における性的指向・性自認のあり方（sexual orientation and gender identity, SOGI）の測定法があげられる。近年、レズビアン、ゲイ、バイセクシュアル、トランスジェンダー（LGBT）を含む性的マイノリティに対する社会的・学術的関心が高まっている。このような状況を受け、量的調査では従来たずねられることがあまりなかった回答者の SOGI をいかに捉えるかに関する方法論的研究が増えている。このような方法論的研究が必要である大きな理由として、一般人口を対象とした調査では大多数の回答者が性的マイノリティではないために、SOGI に関する用語に馴染みがなく、回答者の SOGI の正確な測定が困難なことが挙げられる。SOGI についての知識があまりない回答者が多い調査においていかに SOGI をたずねるかという課題は、従来行われてきた性的マイノリティ当事者を主な対象とする量的調査では生じなかった新しい問題である。このような背景から、日本においても SOGI を無作為抽出調査でいかに捉えるかに関する方法論的研究が少数ではあるが行われてきた（Hiramori and Kamano 2020, 釜野ほか 2020）。

2) 「認知インタビュー」という用語は社会調査法の文脈の他に犯罪調査における事情聴取法の文脈で用いられることもあるが、両者の間には手法が発達してきた歴史的経緯という観点からも研究成果の相互交流という観点からも関連性はほとんどみられない（Willis 2005: 5）。

これらの研究は量的調査における SOGI の測定法について重要な知見をもたらしたが、高年齢層³⁾ については検討されていないという欠点がある。従来、高年齢層の人びとに本人の SOGI をたずねる質問をすることは推奨されてこなかった。その理由は、高年齢層の人びとにとって、このような質問は何をたずねられているのかを理解することが難しく、さらに質問の内容が機微に触れると思われるため、回答を拒否されると考えられてきたからであった。実際、日本で行われた SOGI に関する調査でも、SOGI をたずねる質問に対して「質問の意味がわからない」を選択する人や無回答の人は年齢が高いほど多くなる傾向がみられた (Hiramori and Kamano 2020)。しかし、諸外国の調査では、SOGI をたずねる質問に対する高年齢層の無回答は少なく、しかも年々減る傾向にある (Fredriksen-Goldsen and Kim 2015)。むしろ、高年齢層の間に存在する SOGI にかかわる不平等を明らかにするためには、量的調査で SOGI をたずねる質問を含めることが必要だという主張もなされている (Fredriksen-Goldsen and Kim 2017)。また、高年齢層に SOGI 設問をたずねないことは性的マイノリティ高齢者を不可視化することにもつながる。日本においても、少なくとも1990年代前後から性的マイノリティ当事者のコミュニティ内で高齢期への言及がなされており、学術界においても2019年には『老年社会科学』の特集が組まれるなど (釜野 2023)、「性的マイノリティの高齢期における諸課題」(西村 2022: 341) への関心の高まりが近年みられる。諸外国の研究では、性的マイノリティ高齢者は性的マイノリティに対する差別や偏見の強い時代を長く生きていたことから、若年層と比べて SOGI の自認や開示が遅い傾向にあり、自らの SOGI を隠し続けることがメンタルヘルス悪化につながるなど、高齢者であることと性的マイノリティであることが交差的に性的マイノリティ高齢者の置かれた状況に対して影響を与えていることが示されている (上田 2024)。したがって、日本のような人口の高齢化が急速に進む社会において、高年齢層の人びとを含めた SOGI による格差や不平等の研究はますます必要になると見込まれる。

そこで本研究では、認知インタビューの手法を用いて、一般人口向けの無作為抽出調査における調査票に含まれる SOGI 設問を高年齢層の人びとがどのように理解するのかを検討する。高年齢層が量的調査における SOGI 設問をどのように理解し、回答しているかを明らかにすることは、回答者の年齢層にかかわらず量的調査によって SOGI を捉える方法や設問を精緻化し、SOGI をたずねる標準的な設問となるガイドラインを確立する上でも、極めて重要である。以下では、まず認知インタビューの特徴を解説し、SOGI 設問の改善を目的とする認知インタビューの既存研究を概観する。次に、本研究で行った認知インタビューの方法を説明する。その後、認知インタビューの分析結果を示す。最後に、分析結果を踏まえた上で総合的考察を行う。

3) 後述するように、2019年に大阪府で実施された回答者の SOGI をたずねている無作為抽出調査において対象者の年齢の上限を59歳とした理由の1つとして、60歳以上の SOGI 設問に対する理解度や反応を確認できていなかったことがある。このことが本研究を開始した動機に含まれているため、一般的には65歳以上を高年齢層とみなすことが多いが、本研究では60歳以上を高年齢層とみなす。

Ⅱ. 背景

1. 認知インタビューとは何か

上述のように、認知インタビューとは調査票改善のために回答者が調査票の設問に対してどのような認知プロセスで回答しているのかを探る手法である。認知インタビューを用いた研究の第一人者である Gordon B. Willis (2005: 6-7) によると、認知インタビューには以下のような13の特徴がある。第1に、認知インタビューを実施するにあたっては、調査対象者が調査票に回答するにあたってどのような認知プロセスで回答しているのかに注目する。特に、調査方法論と認知心理学の学際領域である調査方法論における認知的側面 (cognitive aspects of survey methodology, CASM) 分野における調査回答プロセスの4段階モデルという観点から、調査回答プロセスには (1) 設問の内容を理解する段階 (第1段階)、(2) 設問に答えるために必要な情報を記憶から検索する段階 (第2段階)、(3) 記憶の正確さや回答の社会的望ましさなどを踏まえてどのような回答を行うかの意思決定を行う段階 (第3段階)、(4) たどり着いた回答を設問にある選択肢のフォーマットに合わせるなどして実際に回答を行う段階 (第4段階) の4段階があると想定されている (Tourangeau 1984)。

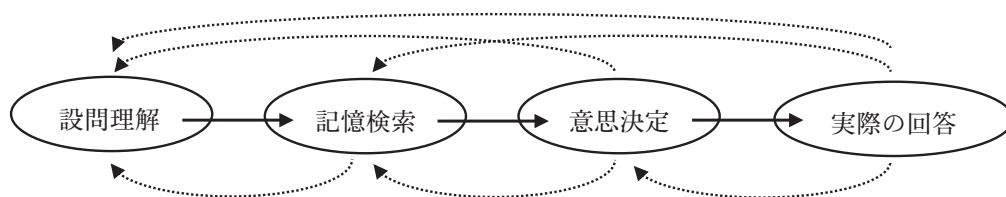


図1 調査回答プロセスの4段階モデル (Tourangeau (1984) の記述を基に図示)

たとえば、「この1か月間、どれほどの頻度でお酒を飲みましたか」という設問に答えるためには、回答者が直近「1か月」についてたずねられているということ、「お酒」にはどのような飲み物が含まれるのかということを理解する必要がある。設問全体として何を聞いているのかの意図も理解する必要がある。回答者によって、ノンアルコール飲料を「お酒」に含めるか含めないかの理解が異なる可能性がある (設問理解)。また、飲酒に関する過去1か月の記憶を思い出す必要がある (記憶検索)。さらに、その後実際にどのような回答を行うかの意思決定を行う。回答者によっては、直近1か月は病気で入院しており一切飲酒していなかったものの、普段は週に2~3回お酒を飲んでいるということを示すために、通常の状態に照らし合わせて回答する可能性がある (意思決定)。その後、自らの回答 (例: 週に2~3回) と調査票で示されている選択肢 (例: 週に数回) を照らし合わせて、あてはまる項目を選択する (実際の回答)。

第2に、認知インタビューは調査票案の作成と実査の間にプリテストとして実施されることが多い。第3に、認知インタビューは専門のトレーニングを受けた調査者が回答者に対してインタビューを行う形で実施される。第4に、認知インタビューでは、実際の本調査対象者のうち特定の集団（本研究であれば高年齢層）に対象者を絞ることが多い。第5に、認知インタビューでは思考発話法（think-aloud）および口頭プロービング法（verbal probing）という2つの手法が用いられる。思考発話法では、回答者が設問に回答する際に「何を考えながら回答しているのか教えてください」、「そのまま話し続けてください」などと調査者が問うことで回答者の思考プロセスを口に出してもらう。調査者はそこで得られた言葉を分析し、設問の問題点およびそれが発生する認知的要因を特定する。一方、同様の問題点が複数の認知インタビューで見つかった場合には、より焦点化させた質問をたずねる口頭プロービング法を用いる。近年の認知インタビューでは、回答者にとって慣れない作業である設問への回答プロセスを口に出してもらうという非効率な思考発話法よりも、回答プロセスのうちの一部に的を絞った質問を使用する口頭プロービング法を用いることが多い。

第6に、口頭プロービング法を利用するにあたっては、さまざまなタイプの質問が用いられる。調査回答プロセスの4段階モデルに基づき、たとえば語句の理解（例：「両性愛者」というのは具体的にはどういう人のことを指していると思いますか）、質問文の言い換え（例：この質問が何をたずねているかをご自分自身の言葉を使って表すとどうなりますか）、回答に対する自信の度合い（例：もしかしたら自分が今回選ばなかった選択肢に実は自分が当てはまっているかもしれない、と思いましたか）や、認知プロセス全般（例：この設問について、特に難なく答えることができましたか、それとも何か気になる点がありましたか、「回答を言い淀んだのに気づきました。何を考えていたのか教えてください」（Willis 2005: 48））などについてたずねることがしばしばある（Willis 2005: 48）。なお、本研究における認知インタビューで使用された質問については、付録の「認知インタビュープロトコル抜粋」に掲載されている。第7に、認知インタビューでは、調査回答時の認知プロセスに着目することで、外から観察可能なものだけでなく、通常は隠れている内面のプロセスも捉えて、設問の改善につなげる。第8に、認知インタビューは心理学実験室などの環境で行われることが多いものの、必ずそういった環境が必要というわけではない。第9に、認知インタビューでは通常1ラウンドあたり5～15人にインタビューを行う。第10に、ラウンド後の検討を経て追加で認知インタビューを実施するなど、複数ラウンドの認知インタビューを行うことがよくある。第11に、認知インタビューは量的調査のすべてのプロセスに関して利用できる方法論的調査ではないものの、面接調査や郵送調査、実態調査や意識調査など、さまざまな種類の調査に対応している。第12に、認知インタビューは作成した調査票を改善するための正式な検証手段ではなく、あくまで改善点の示唆を得る問題発見型の手法である。第13に、認知インタビューを実施したからといってそのまま調査票を改善することができるわけではなく、調査票の改善には調査票作成者の調査法に関する知識が必要である（Willis 2005: 6-7）。

このような特徴をもつ認知インタビューは、量的調査における設問改善のために利用することのできる実用的な手法である。しかしながら同時に、認知インタビューは回答者が調査票をどのような認知プロセスで理解し回答しているかを詳細にたずねることを通じて、より広く回答者が社会をどのように意味付けて理解しているかを把握することのできる稀有な手法である。そのため、近年は回答者の属性やその他の社会・文化的背景が上記で示した調査回答プロセスの4段階モデルにおける設問理解、記憶検索、意思決定、実際の回答といった各段階とどのように絡み合っているかを検討する認知インタビューの解釈主義的アプローチも広がっている (Miller et al. eds. 2014)。

2. SOGI 設問の改善を目的とする認知インタビューの既存研究

現在、日本において SOGI 設問の改善を目的とする方法論的研究は限られており、その中でも認知インタビューを手法として用いている研究はみられない。その一方で、SOGI に関するテーマではないものの、尺度開発を行う研究の一部として尺度の信頼性・妥当性を検討すべく 4～8 人程度に対して認知インタビューを行っている研究は少数ある (たとえば、石井ほか 2020, 丸山ほか 2021, 村上ほか 2022)。しかしながら、これらの研究の多くは尺度を作成する過程で認知インタビューを行った旨を記述しているのみで、具体的にどのような手順を踏まえてインタビューを行い、どのような結果が得られたのかについては書かれていない。中には、インタビュー対象者の人数に関する記載がないなど実査の詳細がほとんどわからない研究もある (たとえば、藤谷ほか 2022)。つまり、認知インタビューの具体的な実施方法や得られたフィードバックが書かれている論文は例外的である (たとえば、松浦ほか 2021, 竹谷ほか 2023)⁴⁾。そこで本研究では、SOGI 設問を事例として用いつつ、できるだけ透明性を確保した形で認知インタビューの紹介を行う。

また、認知インタビューは用いていないものの、日本の文脈を考慮に入れた SOGI 設問作成のためにフォーカス・グループ・ディスカッション (focus group discussions, FGD) を行った研究もある (Hiramori and Kamano 2020)。この研究から導出されたモデル SOGI 設問は2019年に大阪市で行われた無作為抽出調査である「大阪市民の働き方と暮らしの多様性と共生にかんするアンケート」(大阪市民調査) やその他の SOGI をテーマとするいくつかの無作為抽出調査で用いられた SOGI 設問の基盤となっており意義もあるが、SOGI 設問の改善という観点からは FGD という手法にはいくつかの限界点がある。たとえば、FGD では、調査票への回答時における詳細な認知プロセスを把握することができない。また、SOGI のようなセンシティブなトピックについて高年齢層を対象に FGD を実施すると、トピックの特性上、他人同士であっても自由に意見を述べにくい状況が発生したり、FGD という手法の特性上、一部の FGD 参加者が議論の方向性を独占的に決めてしまい少数意見を捉えることが困難になったりするおそれがある。FGD 以外

4) また、インタビュープロトコルをはじめとする、認知インタビューを行うにあたって参考となるツールを公開しているウェブサイト (<https://ontest.notion.site/7aa40e2ddeac465b954ddae093d907b4> (2025年1月31日最終アクセス)) もみられる。

にもモニタ型ウェブ調査などを行い、高年齢層から広く意見を募って設問改善を図る方法も考えられるが、登録モニタの年齢分布から高年齢層の回答者を多く集めるのは難しいと推測される。さらに、ウェブ調査では、回答者が検討中の調査票でたずねられている設問の意味を取り違える可能性があるが、調査者が誤解を避けるべく介入することが困難である。したがって、高年齢層の SOGI を量的調査でいかに捉えるかを検討するにあたっては、認知インタビューの手法を用いるのが適切であると考えられる。なお、大阪市民調査で対象者の年齢の上限を59歳とした背景の1つに、大阪市民調査の準備調査として行われた FGD で60歳以上における SOGI 設問の内容理解や抵抗感の度合いを確認できなかったことがある。

このように日本においては SOGI 設問について認知インタビューを用いた既存研究はないものの、諸外国においては政府機関をはじめとする組織による調査研究が行われている。たとえば、イギリス国家統計局（Office of National Statistics）では、性別（sex）と性自認（gender identity）の設問および性的指向アイデンティティの設問についての認知インタビューを複数行い、設問の理解状況や、設問を含めることが国勢調査への回答を妨げるか否かを確認している⁵⁾。しかしながら、高年齢層を対象とした既存研究はほとんどない。数少ない研究として、アメリカのボストンおよびリッチモンドで65歳以上の22人に SOGI 設問に関する認知インタビューを行ったものがある。この認知インタビューの結果では、回答者は自身の性的指向にかかわらず、性的指向をたずねる設問の意味について正確に理解し回答していた。その一方、性自認のあり方については現在の性自認をたずねる設問を性的指向に関する設問であると誤解している事例がみられた。また、ほとんどの回答者にとって現在の性自認と出生時に割り当てられた性別（以下、出生時性別）は同じであるため、同じような設問をごく少数の人のために入れることに反対するシスジェンダー異性愛回答者もいた。しかしながら、これらの誤解や反感が回答者による誤回答や無回答には必ずしもつながらないことが示された（Redford and Wagenen 2012）。また、アメリカの英語話者とスペイン語話者の高年齢層57人（回答者の中には59歳以下が10人含まれているため、60歳以上は47人）に認知インタビューを行った研究では、特にスペイン語話者の間で性的指向と性自認のあり方の区別が十分に理解されていないことがわかった。また、性的指向に関する質問がなぜたずねられているのかわからない場合には、自らの性的指向を回答するのに不快感があるという回答もみられた。また、高年齢層特有の現象として、性的マイノリティでない回答者の多くにとって性的指向アイデンティティは重要ではなく、むしろセックスの経験や既婚かどうかなどの婚姻形態が自らの性的指向の認識にとって重要な要素であるということが明らかになった（Michaels et al. 2017）。

既存研究の動向をまとめると、性的指向については、性的指向アイデンティティよりも婚姻形態に基づいて自らの性的指向を判断するという高年齢層特有の現象がみられたもの

5) <https://www.ons.gov.uk/file?uri=/census/censustransformationprogramme/questiondevelopment/summaryoftestingforcensus2021/summaryoftestingfeb2021.xlsx>（2025年1月31日最終アクセス）

の、設問は正確に理解されていることがわかった。その一方で、性自認のあり方については性的指向と混同されるなど正確に概念が理解されていない可能性が示唆された。また、回答する際の意味決定にあたっては、ごく一部の回答者のために大多数には該当しない設問を回答させることや設問を設ける目的が明確でないことに反発する場合があった。しかしながら、実際の回答時には、これらが必ずしも無回答や誤回答につながっていないことが示された。さらに、SOGI に関する用語理解度の差異には文化的背景が影響している可能性があることがわかった。そこで本研究では、欧米諸国とは法的、宗教的、文化的背景の異なる日本においても同様の知見が得られるのか、特に、これまで日本で行われてきた SOGI を無作為抽出調査でいかに捉えるかに関する方法論的研究（Hiramori and Kamano 2020, 釜野ほか 2020）に基づいて考案され、実際に活用されているモデル SOGI 設問を高年齢層がどのように理解し、回答しているか、また SOGI 設問への回答に対する抵抗感がどの程度あるのかを中心に検討する。

Ⅲ. データと方法

本研究では、科研費プロジェクト「性的指向と性自認の人口学の構築——全国無作為抽出調査の実施」によって実施された認知インタビューのデータを分析に使用する。調査は2021年10月から2022年1月にかけて行われ、合計18人の回答者を得た。調査時点における新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況を踏まえ、対面または電話・オンラインのいずれでも調査可能となるように準備を行った。本調査の実施にあたっては、国立社会保障・人口問題研究所の研究倫理審査委員会に審査申請を行い、承認を受けている（承認番号IPSS-IBRA#21002）。以下が認知インタビューの概要である。

- 回答者の募集：本調査は、日本在住で日本語の調査票とインタビューへの回答が可能で60代と70代の人を対象とした。回答者の構成が60代20名（男性10名、女性10名）、70代20名（男性10名、女性10名）になることを目標にした。性的マイノリティ当事者も若干名含まれるようにした。回答者は、研究メンバーの知り合いに募集を依頼したスノーボール式および公共施設での「調査協力者募集チラシ」の配布を通じて募集した⁶⁾。調査協力に関心を持った人から、研究代表者が電話またはメールで連絡を受け、調査の目的や内容の概要を伝え、その上で参加希望の意思があるかを確認し、ある場合は、調査方法（対面、電話、オンライン）およびインタビュー日時を決めた。
- 調査方法：対面の場合、インタビューは調査者が所属する機関の会議室で行った。電話・オンライン希望の場合、事前に回答者が周囲に誰もいない個室などプライバシーが確保できる場所でインタビューが行えることを確認し、回答者の了承を得て回答者

6) 公共施設に置いた「調査協力者募集チラシ」をみて連絡してきた方はいなかったため、結果的に協力者のすべてがスノーボール式による募集であった。信頼関係のある知人から紹介を得るスノーボール式による募集は、高年齢層の回答者に比較的長時間のインタビューを依頼する今回のような調査において有効な回答者募集手段の1つといえる。

の希望する住所に調査書類を郵送した。その上で、回答者は自宅の個室などプライバシーの守られる環境が確保できる場所で、調査者も同じく所属先の研究室や会議室など、他の人がいない場所でインタビューを実施した。対面、電話・オンラインいずれの場合も、回答者に試験的調査票への記入を依頼した後（10分程度）、調査票の各問の理解や回答プロセスをたずねる認知インタビューを行った（50分程度）。インタビューは回答者1名に対し、調査者2名以上で行った。調査者1が主な質問者、調査者2が調査の目的や実施方法、同意書の説明、録音、メモ、進行確認を担当した。電話やオンラインの場合は調査者3以降が、他の調査者のインターネット接続に問題が発生した時のために待機した。

- 回答者への報酬：調査方法に関わらず3,000円とした（対面の場合は交通費込み）。途中辞退の場合は1,000円とした。
- 調査内容：試験的調査票には認知インタビュー形式に慣れてもらうための準備的な質問（健康状態、心配ごとを聞いてくれる人の有無、就業状況、雇用形態、ジェンダー意識、政治意識、生年月・年齢、最終学歴、出生国、国籍、宗教、信仰心）と、回答者のSOGIをたずねる質問を含めた。また、階層帰属意識、世帯収入（年収）、貧困状況の質問も調査票の最後に入れた。認知インタビューでは、SOGI設問を中心にそれぞれの問いについて、質問文や選択肢の内容をどのように理解したかをたずねる質問をした（上述の付録にある「認知インタビュープロトコル抜粋」参照）。なお、試験的調査票の表紙には、現在協力を依頼した研究チームで全国調査を企画中であり、この調査票は実際の調査に含める予定の質問の中から回答者の意見を聞きたい項目について一部抜粋したものである旨が書かれている。以下が、試験的調査票で使用したSOGI設問である。

問 11 あなたの性別に○をつけてください。[出生時の戸籍・出生届の性別]（○は1つ）

1 男	2 女	※「出生時」とは、生まれたときにもっとも近い時点のことをさします。
-----	-----	-----------------------------------

問 12 あなたは今のご自分の性別を、出生時の性別(上で○をつけたもの)と同じだと考えていますか。
（○は1つ）

1 出生時の性別と同じ（→問 13へ）	2 別の性別だと考えている	3 違和感がある
---------------------	---------------	----------



【問 12 で「2 別の性別だと考えている」や「3 違和感がある」と答えた方のみ】

問 12-1 今の認識にもっとも近い性別をお答えください。（○は1つ）

- | | |
|---------------------|------------------------|
| 1 男 | 4 男女の間であると認識している |
| 2 女 | 5 男女のどちらでもないと認識している |
| 3 男女のどちらでもあると認識している | 6 自分の性別が揺れ動いていると認識している |
| | 7 その他（具体的に ） |

問 13 次の中で、あなたにもっとも近いと思うものに○をつけてください。（○は1つ）

- | |
|--|
| 1 異性愛者、すなわちゲイ・レズビアン等ではない [異性のみに性愛感情を抱く人] （→問 14 へ） |
| 2 ゲイ・レズビアン・同性愛者 [同性のみに性愛感情を抱く人] （→問 14 へ） |
| 3 バイセクシュアル・両性愛者 [男女どちらにも性愛感情を抱く人] （→問 14 へ） |
| 4 アセクシュアル・無性愛者 [誰に対しても性愛感情を抱かない人] （→問 14 へ） |
| 5 <u>決めたくない・決めていない</u> |
| 6 質問の意味がわからない（→問 14 へ） |



【問 13 で「5 決めたくない・決めていない」と答えた方のみ】

問 13-1 その理由でもっとも近いものは次のうちどれですか。（○は1つ）

- | |
|---|
| 1 自分は異性愛者ではなく、クィア・パンセクシュアルなど、別のアイデンティティをもっている |
| 2 まだ決めていない、今決めようとしている最中、迷っている、1つに決められない |
| 3 自分に「異性愛者」、「同性愛者」、「両性愛者」、「無性愛者」などといったラベルをつけていない・つけたくない、分類しない・したくない |
| 4 その他（具体的に ） |
| 5 問 13 で使われていた用語や、質問の意味がわからなかった |

問 14 これまでにあなたが恋愛感情を抱いた相手について、一番近いものに○をつけてください。

（○は1つ）

- | | |
|----------------------|--------------|
| 1 どちらにも恋愛感情を抱いたことがない | 4 男性と女性同じくらい |
| 2 男性のみ | 5 ほとんどが女性 |
| 3 ほとんどが男性 | 6 女性のみ |

問 15 これまでにあなたが性的に惹（ひ）かれた相手について、一番近いものに○をつけてください。

(○は1つ)

- | | |
|------------------------|--------------|
| 1 どちらにも性的に惹（ひ）かれたことがない | 4 男性と女性同じくらい |
| 2 男性のみ | 5 ほとんどが女性 |
| 3 ほとんどが男性 | 6 女性のみ |

問 16 これまでにあなたがセックスをした相手について、一番近いものに○をつけてください。

(○は1つ)

- | | |
|----------------|--------------|
| 1 セックスをしたことがない | 4 男性と女性同じくらい |
| 2 男性のみ | 5 ほとんどが女性 |
| 3 ほとんどが男性 | 6 女性のみ |

IV. 結果

1. 回答者の分布

認知インタビューは18人を対象として実施した。ここでは回答者の属性を概観する⁷⁾。

(1) 年齢および性別、国籍

回答者の年齢分布は、60代14人、70代3人、80代1人である。それぞれの内訳は、60代14人のうち、60～64歳が4人、65～69歳が10人、70代3人はすべて70～74歳、80代の1人は80～84歳（80歳）である。回答者18人の半数強は65～69歳で、75～79歳と85歳以上はいなかった。回答者の性別は、男女とも9人ずつである。なお、現在の性自認と出生時性別が異なる回答者はいなかった。性別と年齢を合わせてみると、男女とも60代は7人（ともに60～64歳が2人、65～69歳が5人）、70代（ただしすべて70～74歳）は男性2人、女性1人、80代（80歳）は女性1人となっている。また、生まれた国、現在の国籍については、18人全員がいずれも日本と回答した。

(2) 仕事

仕事についてたずねたところ、回答者18人全員に就業経験があった。内訳は、現在仕事についている人は9人、今はついていないが過去についていた人が9人で、半数ずつである。性別にみると、男性では現在仕事についている人が4人、今はついていないが過去についていた人が5人、女性ではそれぞれ5人、4人で、男女どちらも、現在仕事について

7) 回答者の属性を図示したグラフについては、本論文の元となったワーキング・ペーパー（平森ほか 2023）を参照のこと。

いる人と今はついていないが過去についていた人はほぼ半数ずつであった。年齢別にみると、60代では現在仕事についている人が7人、今はついていないが過去についていた人が7人、70代ではそれぞれ1人、2人、80代の1人は現在仕事についている。現在仕事についている人の仕事の種類は、自営業主・自由業者が9人中5人でもっとも多い。このほか、臨時雇い（公務員含む）・パート・アルバイトが2人、自営業の家族従業者が1人、常時雇用されている従業者（公務員含む）が1人である。今は仕事についていないが過去についていた9人の内訳は、常時雇用されている従業者（公務員含む）が7人と大部分を占め、このほかでは派遣・契約・嘱託社（職）員と臨時雇い（公務員含む）・パート・アルバイトが各1人である。

（3）学歴

回答者18人の最終学歴の内訳は、大学7人、専門・専修学校4人、大学院4人（うち中退1人）、短大・高専2人、高校1人で、半数以上が大学以上の学歴をもっている。性別にみると、男性9人は全員が大学以上で、大学と大学院がほぼ半数ずつである。女性では高校から大学までの4区分に分布しており、そのうち専門・専修学校が4人ともっとも多い。学歴の分布には男女で差がみられた。

（4）世帯収入

1年間の世帯収入について、回答者18人のうち最小値は「100～200万円未満」（1人）、最大値は「1100～1200万円未満」（1人）である。もっとも多いのは「400～500万円未満」（9人）で、中央値もこの区分である。性別や年齢とは特に特徴的な関連はみられない。

世帯収入と就業の有無との関連をみると、現在仕事についている人は9人中7人が400～500万円未満で、残る2人はそれより低い。現在仕事についていない人においては、400～500万円未満に該当するのは2人で、4人はそれより低く、3人はそれより高い。現在仕事についていない人のほうが、経済的状況にばらつきがあった。

2. 認知インタビューの分析結果

ここでは、SOGI 設問に関する認知インタビューの分析結果を示す。まずは出生時性別（問11）および性自認のあり方（問12）に関する設問について得られた結果、次に性的指向アイデンティティ（問13）に関する設問について得られた結果、最後に恋愛感情・性愛感情・セックスの経験（問14-16）に関する設問について得られた結果を示す。なお、インタビュー・データを表記する際には、ニュアンス等をできるだけ正確に伝えるため、回答時の表現を可能な限り尊重した。ただし、個人を特定できる可能性のある情報については適宜変更を加え、読みやすさの観点から（〇〇）で必要最低限の加筆修正を施し、[…]
で中略を示している⁸⁾。

8) より詳細な回答例については、本論文の元となったワーキング・ペーパー（平森ほか 2023）を参照のこと。

（１）出生時性別および性自認のあり方

第１に、出生時性別の設問で引っかかる点がある人はいなかった。回答例としては以下のようなものがある。

- ・いや、これは別にありません。一般的にいろんな申請書で、男とか女とか、最近はこちらにプラスして、どちらでもないっていう項目の入ったものも時々、見かけるようになりましたけど。
- ・何もなく、あのすんなりと答えられました。
- ・これは私らの年代だと、全然何も。あの普通に。

第２に、設問中に「[出生時の戸籍・出生届の性別]」という文言があったことによって、間違った回答をする人や回答を変える人はいなかった。設問中に「[出生時の戸籍・出生届の性別]」と書かれているために、出生時性別と現在の性自認が異なる人がいることを知った上で、この注釈が付いていることに気が付いた人も一部いたが、単なる性別の設問として回答する人も多くいた。また、性的指向と混同している人もいた。しかしながら、回答自体に影響はなかった。回答例としては以下のようなものがある。

- ・一応、あの（「[出生時の戸籍・出生届の性別]」という文言を）軽く見ましたが、何の疑問も無く２番（「女」）にしました。
- ・いや、今いろんな方がおられるので、まああのこういうことも付け加えておられるんだなというふうには思います。（調査者：たとえば今の出生時とか、戸籍、出生届の性別がここになかったとしたら、あなたご自身の回答は何か変わりますか？それとも同じになりますか？）同じ。同じです。
- ・見てなかったですね。すぐ、「女」に丸、付けちゃって。（読んでいたとしても）回答は変わらなかったです。
- ・あ、読まなかったです。ただ男か女に、よくある、いわゆる男か女かっていう質問よくありますよね、歳とかと一緒に。そんな感じで、あれで、こっちまであんまり読みませんでした。すみません。
- ・（注は）特にあの、そこもあんまり深く見ないで男か女か丸打ちしましたけど。（調査者：注を改めて読んで気になる点はありますか？）うん。意味がちょっとわからないですね、改めて見ると。でも、まあ丸がすぐ打てると思うんですけど。（改めて注を読んで）うん、意味がちょっとわからないですね、改めて見ると。うん…どうでしょうね、何のことを言ってるのかなぁと思いながら。うん…でも、まあ丸がすぐ打てると思うんですけど。
- ・男で生まれても女に育ちたいとか、女で一生涯を終えたいとか、逆に言うと女で生まれたけれども、あの、他の性でという方もいらっしゃるということかな？

- ・ただ単に性別です。男か女か。
- ・やっぱり、たとえば、ゲイとかレズビアンとかっていう自覚をもっているのかどうか、それが同じかどうかっていうところ。

第3に、性自認のあり方の設問についても引っかかる点がある人はいなかった。回答例としては以下のようなものがある。

- ・全然迷いなしです。
- ・はい。問題ないですね。
- ・なんでわざわざこんなこと聞くのかなと思ったぐらいで。同じなのにな、と思ったりしたんですけど。はい。それだけです。はい。

第4に、性自認のあり方の設問については、枝問を回答する必要のない選択肢を選んだにもかかわらず間違えて枝問にも回答した人が2名いた。そのうち、設問をよく読まずに回答した人が1名、自分が現在、認識している性別を全員回答するものだ、と思って回答した人が1名いた。また、自分は難なく回答できたが、自らの性別に違和感を感じている人はこのような質問がされると困るのではないか、というコメントをした人がいた。また、性自認のあり方と性的指向を混同している人が多かった。問12（性自認のあり方）は何について聞いている質問かという問いに対して、性自認のあり方に関わる問いであるという旨の回答があった一方で、性的指向に関する説明をする人が少なからずいた。しかしながら、その混同によって本人が間違えて回答するわけではないことがわかった。また、「心」と「体」の性の不一致は高齢者にはみられないだろうという見解を示す回答者もいた。インタビューの中で改めて選択肢を読んで、自分は別の選択肢にあてはまっている、と思った人はいなかった。回答例としては以下のようなものがある。

- ・問題をよく見なかったんで、1の「男」に丸をしてますね。そうか、2（別の性別だととらえている）と3（違和感がある）の方のみが書き込む欄なんですね。ちゃんと読んでなくて、そのまま下に箱があるのを見て、選んでしまいました。
- ・（調査者：問12のメインの設問で、たとえば1（「出生時の性別と同じ」）っていうふうに答えた人も、今の認識に最も近い性別を答えてもらったほうがいいと思いますか？）そう理解したんですよ、私はね。
- ・私は別に、普通にスムーズに答えましたけれども、自分の性別に違和感を感じている方は、もちろん引っ掛かるんだろうなという感想です。
- ・（2については、）よく今いらっしゃる性同一性障害とか、ということですよ、（3については、）違和感があるっていうのはやっぱり、自分が女なんだけど、やっぱり男の人に目がいなくなって女性にいくっていうのが違和感かなと思うんですね。
- ・外観男だけど、心は女やという、そういうことでしょう。違和感があるっていうの

も心と体の違うところやわな。それは私自身がこれには関係ないんだけど、そういう人もおるっていうの知っとるから、こういうことについての質問なんだろうなと思うんだけどね。高齢者やったら、こんなのないんちゃうかと思うけど、わからん。それは。はい。

・（調査者：自分が今回選ばなかった選択肢に、実は自分が当てはまっているかもしれないというふうに思いましたか？）絶対違う。まあ、長年生きてても、女として生きてきたから。別に別の性だと思ってはないですね。違和感があるというのもないです。

・（調査者：自分が今回選ばなかった選択肢に、実は自分が当てはまっているかもしれないというふうに思いましたか？）まったく思わないです。

性的指向に関する問いであるという解釈の例は、次のとおりである。

- ・よくゲイの方とか、レズビアンの方とかおられますよね。そういう方々の暗示かなっていうふうに。3番の違和感があるという。まあそこまではっきりと自分がまだホモだとかゲイだとかって言うことをまだ言い表せないけどなんとなく自分の中でなんか自分がちょっと違うのかなって思っておられる方々かなっていうふうに思いました。
- ・ふつうの一般的な結婚を望んでないとか、自分はちょっと男性に興味がないとか、女の人の方がしっくりするとか。

第5に、これらの設問に対する抵抗感については、感じる、という人が一部いた。主な理由は、目的がわからない、何を聞きたいのかと思う、一般的な調査名にもかかわらず性に関して聞かれるので違和感がある、性に関することはプライベートなことなのでそれを社会に関する意識でまとめられることに躊躇するなどであった。しかしながら、調査で最初から性についても聞くということや、調査目的が表紙・設問の前にきちんと書かれていれば、回答するということであった。また、抵抗感のある人にフォローアップ質問としてどこに調査目的を記載するのが適切であるかをたずねたところ、調査目的は表紙と設問直前の両方に入れることを提案していた。また、自分は抵抗感がないものの、自らの性別に違和感を持っている人は回答しづらいのではないか、という意見もみられた。実際の回答意図についても、抵抗感がある人はやはり回答しない意向を示していた。特に、問11（出生時性別）は回答するが、問12（性自認のあり方）については回答しないという反応があった。ただし、調査の目的や意義がわかれば回答するという人が多かった。回答例としては以下のようなものがある。

・抵抗感無いです。（調査者：無いというのはなぜ無いんですか？）自分が女性として生まれて女性として生きているので、それを別にあの隠す必要もないし、聞かれたらそれは答えるという。

・抵抗感っていうのは自分自身としてはないです。だけど、ちょっと違和感を感じま

す。何を聞きたいのっていうところですかね。

・目的を最初に指定してくれたら、違うんじゃないかと思いますね。（調査者：目的が書いてあって、たとえば性の多様性について知りたいです、みたいなことが書いてあれば、書いていないよりは、なぜこういう質問があるのかがわかるという感じですかね？）はい、そう思います。（調査者：そういった説明ですね、なぜこの質問を聞いているのかという説明は表紙にあったらいいと思いますか、それとも問11のたとえば直前とか、このアンケートの中にあるのとどちらがいいと思いますか）私の側は表紙にあった方がいいと思います。

・ちょっと違和感。[…]何を意図してってというのが。あの、もしも、目的がちゃんとはっきり理解できてたら持たないと思うんですが、いきなり日常生活にそういうものがゴロッと来たらびっくりするというか、すごい違和感です。（調査者：問11の前に、以下の質問はたとえば性の多様なあり方を知るために、この質問をしています、みたいな注意書きがあったら、抵抗感とか違和感はちょっとは減ると思いますか？）そうですね。無意識に減るんじゃないでしょうか。（注意書きは、）表紙と問の直前と両方あってほしいと思います。表紙も一応は読みましたが、読んでみて全然さしつかえのない感じでしたので、そのままずっと読んでますが、もうこうやっている間に頭の隅に、どっか行ってるでしょう。

・自分は回答できます。（調査者：回答できるよっていうその理由としては何かありますか？）そう聞かれると答え…、一応男で育って男として生活してきて、もうずっと男できてますからね。

・回答しない。狙いがわからないから。狙いっていうか、社会に関する意識や考えを把握に、どうしてこの個人的な性が、とてもプライベートなものが出てくるのかっていう抵抗はあります。性に関することで調査をしたいっていうのをきちんと言ってくださってれば書きます。問11は答えます。履歴書にも書くので。でも12は微妙かな。

・目的を理解すれば、大丈夫（実際にその質問に答えるつもり）ですね。（調査者：もしなぜこういう質問を聞いているのか、というのが、表紙とか問の直前でであっても、もし書いていない場合は、答えますか？）答えません。

・アンケートの主宰者によって変えると思います。アンケートの目的によって変わるんじゃないかな。

自らの性別に違和感を持つ人は回答しづらいのではないかと解釈している例は、次のとおりである。

・（抵抗感）はないですね。逆に言えば、別の性だと考えたりとか違和感があると、なかなか答えづらいかな。

・私はないです。別に性別に関して、どうだろうな、ああだろうなって思ったことがない。なので、そういうことで悩んでる人にとっては、この質問は大変な質問かなっ

て思いますね。

- ・これはだから、私の場合はまったく抵抗感ないです。2 番、3 番に該当する方がどうなのかっていうと、ちょっとわからないですね、これは。

（２）性的指向アイデンティティ

第 1 に、性的指向については、日頃考える機会が少なく、異性愛者という言葉を知らなかったり馴染みがなかったりする人が多かった。ただし、設問については漠然とではあるが何をたずねられているのか理解している人が多かった。その一方で、なぜ調査者が性的指向をたずねたいのかについてはわからない、という人が多かった。SOGI 測定法の既存研究では、性的指向アイデンティティをたずねる際に、異性愛者の選択肢に「ゲイ・レズビアン等ではない」という補足説明を追加することが効果的であると示されているが (Hiramori and Kamano 2020)、今回の認知インタビューでも、普段異性愛者という言葉を使わない人が異性愛者の選択肢を選べるようにする上でこの補足説明は効果的であった。回答例としては以下のようなものがある。

- ・いやもうこんなんもう全然考えもしていなかったし。うん。ゲイとかレズビアンとかなんか全然考えていなかったし。よくテレビでそんなことは言っていますけど、私にはもう全然関係ないと思っていますので。

- ・この問題で（聞きたいこと）は、私はゲイかレズビアンか、異性愛者かなっていうこと。

- ・同性に対する愛情、感情を持っていますかっていうことだと思うんですけど。なぜこの質問がっていう気持ちは、ないわけではないですね。最初に、目的のところそういう意識を調査しますって書いてあるので、聞いてきても不思議はないんですけど。

- ・（異性愛者という言葉は）あんまり聞いたことがなくて、（この選択肢をみたときに）ちょっと異性愛者ってなると、ちょっと言葉が強すぎて、ちょっとドキッとしましたけど、後ろ見たらゲイとかレズビアン等ではないですよ、という意味で。

- ・ゲイ、レズビ…すなわちゲイレズビアン等ではないんで（この選択肢を選んだ）。

第 2 に、性自認のあり方の設問でもみられた性的指向と性自認のあり方や性別との混同がここでもみられた。ただしそれによって、想定外の回答がなされることはなかった。また、各選択肢の用語については一部理解していない事例もみられたものの、認知インタビューでの回答と調査票上での回答に矛盾があった事例はなく、各選択肢に関する理解不足が回答へ与える影響はなかった。多くの回答者は、異性愛者の選択肢のみを見て、他の選択肢は見えていなかった。回答者の知らなかった用語について調査者から意味を伝えても、用語の意味がわかったことによって回答が変わることはなかった。回答例としては以下のようなものがある。

- ・（性的指向の問いは）自分がどちらの性別であるかっていうのをどういうふう理解しているか、自覚しているか。
- ・同性愛とかそんな全然そこから見ても別に何も私には関係ないと思って見なかったです。ほとんど。
- ・回答するときに。もう1番が当たってたので。あとはスルーしました。
- ・たぶん今までにこういう質問を受けたことがないので。うん。ちょっと自分の中でも最初に見た時にまあ1番と丸しましたけれども、こう下のところまで読んでみませんけど2番と3番のそういう選択肢もあるのかなってというのは、ちょっと今まで見たことないアンケートの内容だったので、あのちょっと驚きはしないですけど、あっ、こういう選択肢もあるんだなって思いましたけど、はい。でもまあ自分は違うから、まあ1番でいいわ、みたいな感じで。

第3に、性的指向アイデンティティの設問に対する抵抗感についてはそれほどみられないが、中には問11-12（出生時性別および性自認のあり方）に比べて強い抵抗感を覚える人もいた。ただし、調査テーマや趣旨が理解できれば回答すると考えているケースも多く、性の多様性に関心があり知識があると認識している回答者の中には、むしろ同様の設問が今後増えていくことが望ましいという考えを示す人もいた。性的指向においてマイノリティである当事者は回答に抵抗感を覚えており、調査目的によって回答するかしないか変えることが明らかになった。また、当事者の中でも答えにくい状況にいる場合は性的指向アイデンティティよりも恋愛感情、性愛感情、セックスの相手の性別をたずねる問いの方が答えやすいという見解が示された。また、この設問に抵抗感を表明した人はSOGI設問に限らず生年月などについても詳細すぎると抵抗感を示す場合があった。回答例としては以下のようなものがある。

- ・抵抗感もあるかもしれないけどね、なにしろ関係ないと思ってしまいます。頭から。私には。
- ・前の11（出生時性別）、12（性自認のあり方）の問いはなんとなくわかる、公的な感じで。でもこの下（性的指向）のなんか難しいな。性的なものに関してのツッコミはちょっと違和感がある。[...]自分の回答だったら答えます。
- ・趣旨がしっかり書いてあって、自分が理解できれば（回答します）。
- ・こういうことのためにこれを質問してますっていう説明があれば、あの答えやすいですよ。ただ、ポンとくると、え、何これ、何でこんなこと聞くのっていうあれがあるので、こういうことのための参考として、こういうことをお聞きしますみたいな感じの説明があったほうが理解しやすいっていうか答えやすい。
- ・（用語が）わからなくてもいろいろあるんやなということを、マジョリティの方も気がつく。だから、結果としての数字がどうじゃなくて、こういう言葉を使って調査すること自体[...]いろんな人がいるんですよということを知っていただくというこ

とで[……]アンケートを取ることによって、そういう効果も期待できるのかなと。

- ・抵抗感あると思います。やっぱり公にしていってというのと、クローゼット（性的マイノリティが自らの性的指向や性自認のあり方を周囲の人に公表していない状態を示す暗喩）で生活してるので、やっぱりあらためて聞かれると、心理的に抵抗がある。アンケートの目標、目的によって変わると思います。セクシュアル・マイノリティの人のために、福祉の充実ですとか、公共の基準が良くなるとかいうことでしたら。

- ・（アンケートの目的の伝え方について）あまりしつこいと、嫌になっちゃう人もいるかもしれない。ただ、マイノリティの人たちは、多少ちょっと書いてあれば、ちゃんと深読みしてくれるんじゃないか[……]。マジョリティの人たちは本当にさっと読んじゃうだけだと思うんで、それほど細かく懇切丁寧に書かなくても大丈夫なような。

- ・はっきり自分で意識してる人は問題なく答えるかもしれないですけど、心に迷いがあったり、自分はたとえば同性愛者がいいんだけど、それを認めたくないような時期っていうのはあったりとか。そうなってくると13で断定的な答えがしづらい状況の人もいるんじゃないかと思いますね。だから14（恋愛感情）、15（性愛感情）、16（セックスの経験）のほうが少し答えやすい、私は答えやすいんじゃないかなというふうに想像します。

- ・僕だったら別に大学出てるんであれですけど、人によっては、ねえ、答えたくない人もいるでしょうし本当にこれ信用して良いのかっていう、あれですね、なんかたとえば、そういう人はあんまりいないかもしれないけど、カードのなんかね、暗証番号を使ってるとか銀行のなんか、番号に使ってる、可能性もあるし、だから本当に信用できるのかなとか、そういった数字（生年月の問い）まで書いてくのが。

第4に、用語理解については、レズビアン・ゲイの意味については理解しており、バイセクシュアルについても馴染みはないものの知っている人が多い一方、アセクシュアルについては初めて聞く人が多かった。自分はある程度、性の多様性についての知識があると認識している回答者からは、自分自身はわかるが、同世代の一般の人はわからないのではという回答がみられた。高年齢層特有の回答として、アセクシュアルに用語説明がついているため、ここに該当するのではないかと考えるという回答がみられた。回答例としては以下のようなものがある。

- ・バイセクシャルわかるよ。（調査者：4番のアセクシュアル、無性愛者って？）わからん。

- ・私なんかは[……]ゲイとかレズビアンとかバイセクシュアルとか[……]最近でいうアセクシュアルとか、こういうことは学びとしてわかってますけども。われわれと同世代ぐらいの60代とか、その上の70代のところにアセクシュアルとか無性愛者とかって言われても、なんやそれは、というふうになんかきつと。なんやこれ、というふうになるような気はしますね。

・年取るともう、何て言うんですかね、異性っていう感じがだんだんなくなってきましたね。若いときはありますけれど、年取ってくると。そうするとこの4番的ななんか、高齢者っていうんで、まずあのそういう感じがある人もいるかもわからないけど、そういう感情っていうのが若い時はもうあの別に普通のね、あの異性愛者っていうあれだけでも、だんだん年取ってくると、あんまりそういう感じがあまり少なくなってくるっていうんですか、その、ホルモンの関係なのかしら、なんかね。

第5に、既存研究において異性愛者から自分は設問について特に問題ないが非異性愛者にとっては問題があるかもしれないのではと指摘するというような、あくまで回答者本人の意見をたずねているにもかかわらずマイノリティの意見を想像して見解を述べる事例が観察されたが (Hiramori and Kamano 2020), 同様の事例が今回もみられた。回答例としては以下のようなものがある。

・1番(異性愛者)を選ぶ人は抵抗感はないと思いますけども。2(同性愛者)とか3(両性愛者)とか、やっぱりその人たちは、抵抗感がまだあるんじゃないかと思えますけどね。異性愛とかね、ゲイとかレズビアンに、自分はあてはまらないから答えられると思うんですよ。難なく答えると思うんで。でもやっぱりレズ(ビアン)とかゲイの人は、多少躊躇すると思うんですよ。私がそうだったら答えないと思う。逆にね。レズビアンだったら、どうだろう。答えないかなっていうのね。あるかな。

・その人たちの気持ちはわからないので、大っぴらにそういう風になんか訴えてる人はまあ、丸打つんでしょうけど、自分はゲイとかレズビアンとかまあそういった社会的なこと、なんか望んでる人はまあ、打つんでしょうけどね。まったくなんかやっぱり世間の目でああいうのがあって、そうなんだけど、そっとしておいてほしいみたいな人は打たないでしょうし。

(3) 恋愛感情・性愛感情・セックスの経験

第1に、恋愛感情・性愛感情・セックスの経験については、回答時にそれぞれの問いの内容が違うと感じた人もいるが、最初は全部同じことをたずねているという印象を受けた人が多かった。ただし、回答しながら各問がそれぞれ意図するものの違いに気づいた人もいた。また、調査票への回答時に3つとも同じことを聞いていると思っていた人でも、同じだからといって回答を飛ばそうとは考えないということであった。回答例としては以下のようなものがある。

・違う。答えは一緒なんですけど、恋愛感情と性的に惹かれたって表現が違うから、なんか、聞いていることは違うのかなと。問13は性愛感情だし、14は恋愛だし、15は性的に惹かれるんは何なんだろうと。ぱっぱっぱと答えたので、あまり考えはないんですよ。ただ、言葉が違う、表現が違うので、なんか、聞いていることは違うのかな

という気はしました。

- ・（調査者：問14は恋愛感情を抱いた相手で、問15には性的に惹かれた相手というふうに表現しているんですが…）私たち若い頃っていうのは割とあのイコールっていうんですか、近いことが多いので、別になんか、何ていうんでしょう、いちいち考えないっていうんですかね。

- ・一瞬（みな同じことをたずねていると）思って、そのまま2、2、2に。[…]ただ読み解くと、とてもこれはちょっと微妙かもしれない。この段階つけたっていうのには意味があるんでしょうね。きっと作った方からすれば。だからちょっと私は考えなしだったかもしれません。でもそれを見て恋愛だからねとか、性的にだからねとか、それで書きちゃいましたけど。私の中では、一つの事項にしか思えてないから。

- ・（アンケート回答時には3つの問いは同じことをたずねているとは思ったものの、）全部回答普通にいたしました。飛ばそうなんて思いませんでした。

第2に、これらの問いで気になるところや引っかかるところについては特にないという人が多かった。一方、昔のことまでは覚えておらず高齢層にとっては難しい質問だという意見や、自らの過去の経験から一時的に同性に恋愛感情を抱いた経験をどう答えるか考えた結果、その時の経験も踏まえて回答したという意見もみられた。また、自分自身のこととは別に、一時的に同性に対して恋愛に近い感情を抱いた経験のある人はどう答えるのだろうかと思うという回答もあった。回答例としては以下のようなものがある。

- ・問14（恋愛感情）、問15（性愛感情）って、私ぐらいの年になると、昔のこと覚えてない。どうだったかなっていう感じ。10代の頃から、50年ぐらい、結構、記憶って薄まってきちゃうんでっていうのも。

- ・ほんのちょっとなんですけど。私は寮に入ってた。で、（回答は）「ほとんどが男性」なんですけども、寮に入ったときに、女子ばかりの寮なので、そういうカップルが多かったんですね、女同士の。で、その片割れのほうの人から強く誘われたことがあったときに、一瞬だけでも揺らいだことがあったというか、若いときですから、そういうことがあったんで。それで、恋愛感情というのは、ここにあてはまるのかな、「ほとんどが男性」、にあてはまるのかな、と思って。本当、一瞬なんですけどね。でも、そういう気持ち自分がなかったかという、一瞬だけでも恋愛感情というか、を持ったことがあったかなと思って。そういう性的なものではなかったので、淡い、先輩を思うような感じ？そんな感じだから、それが恋愛と言えるのかどうかもわかんないんですけど。

- ・だから、そういうふうな時期とか、相手によっては、（男性として）男性にも恋愛感情的なものは抱くと。[…]一時期、そういうふうに、同性に恋愛感情を抱いたことがあるという経験の人は、どれ選ぶかなって。

第3に、問いと選択肢をきちんと読まず、並び順から「男性のみ」と回答してしまった男性の事例や「男性のみ」と「ほとんどが男性」という選択肢があると認識せず、「ほとんど」の方を選んでしまった事例があった。提示されているもの以外にあった方がよいという選択肢は特にないという意見が大多数だったが、無性愛を示す選択肢があってもよいのではという回答があった。むしろ多くの回答者から、選択肢が多く見慣れないものが多いため、すべての選択肢を読まず目についた（見慣れていて目につきやすい単語、漢字の中に出てくるカタカナなど）選択肢を選んでしまったという指摘があった。回答例としては以下のようなものがある。

- ・まったく質問を取り違えて。前のページからの流れで、同じ流れできてて、もう、「男性のみ」っていうふうに丸してしまったんですね。質問をちゃんと読まずに、前の11、12、13の流れで丸をしてしまったという感じですね。[...]セックスした相手っていうのが、目にとまったんで、それを見て（誤りに気がきました）。
- ・（自分は女性だが、）これ、「ほとんどが男性」って、「男性のみ」とがあるんですね。2番ですね、問14。「ほとんどが男性」っておかしいですもんね。2番ですね。問15も2番です。それから問16も2番です。男性っていうのが見えたからつけたっていうふうに。ちゃんと読んでないんですよ、ほとんど。こういうアンケートって。
- ・精神的な、そういう恋に関わる感情と性的な話はちょっと別じゃないかなって。というのは、どこでしたかね、無セックスとか、いろんな方いらっしゃるんですね。（調査者：無性愛、そうですね）中には恋愛自体をしてても性的な行為はしたくないっていう人もいますよね。それは区別したほうがいいんだと思います。
- ・（他の選択肢は）全然見なかった。ほとんど見るあれなくて。（調査者：パッと飛び込んできた。男性が。）そうです。

第4に、これらの設問に対する抵抗感については、いずれも低かったが調査目的が明記され理解できればという条件付きであった。全般的に、答えづらさを感じつつも、質問の必要性が説明されている場合には回答するという態度が目立った。また、問14（恋愛感情）、問15（性愛感情）については抵抗がないものの「セックス」という言葉を使用している問16（セックスの経験）については抵抗がある、または自身では抵抗がないものの高年齢層や「保守的」な人の中では嫌悪感や抵抗感を抱く場合が多いのではないかという意見もあった。加えて、性的マイノリティ当事者ではないから答えられるという意見や無記名だから答えるという反応もみられた。回答例としては以下のようなものがある。

- ・抵抗感はないです。こういうことをちゃんと聞きますよっていうのがあれば。
- ・やっぱり恋愛とかっていうのは、個人的な、本当プライバシーの部分だと思うので、そこまで別に教える必要がないというか、なんで必要なのかと、もちろん目的がはっきりしてればですけども。

- ・14、15ぐらいは抵抗はないと思うんですけど。16になるとちょっと抵抗あるかもしれない。
- ・セックスをした相手とか、そういうのになると、どうしてもこう何て言うんだろう。隠しごとじゃないんですけど、オープンにできるような内容じゃないのかなというふうには思ってる。ということではちょっと違和感あるかな。問14、15の方がちょっと抵抗感はあるけど、答えやすいっていう感じ。
- ・（セックスという）言葉がね。単刀直入にそんなこと言われても、ちょっとね。躊躇しちゃうね。
- ・私はまったく。こういうことは大いにやってほしいと思いますけど、それなりに年がたってしたらね、なんでこんなこと聞かれなあかんねや、言うて。言ってみれば（保革意識の設問の）1番から7番の1番（保守的）に近い人なんかやったら、汚らわしいとか言ってすぐアンケート調書を破ってしまうような人がいらっしゃるかもしれないね。今の日本の状況からすればね。
- ・うん、どうなんだろうな、まあ、答えてもいいかなと思いますけど、別に、ええ、普通なんで。（調査者：はい、その普通っていうのはどういったのが・・・普通だというふうに？）あ、そうかさっきの、えっと、ゲイとかレズビアンではないんで。
- ・匿名って言われてるので、そこは安心して（答えられる）。

V. 考察

本研究では、60代以上の高年齢層を対象とした認知インタビューから得られたデータに基づき、高年齢層が量的調査における SOGI 設問をどのように理解し、回答しているかを分析した。その結果、性的指向と性自認のあり方についてははっきりと区別・認識されていない一方で、そのことが原因で回答を誤るなどのケースは少なく、SOGI 設問に抵抗感を示す人がいたものの、調査や質問の目的や意義がわかれば回答するという姿勢を示すことがわかった。また、恋愛から離れている高年齢層がアセクシュアルの説明を聞くと、自分はそれに該当するのではないかと思う可能性もあることが示唆された。

大阪市民調査の準備調査として実施された FGD を用いた研究では、性的指向と性自認のあり方の区別については詳細にたずねられていなかったが（Hiramori and Kamano 2020）、本研究では認知インタビューを用いることで、SOGI に関する理解の度合いを精緻に把握することができた。また、FGD に基づくモデル SOGI 設問では、性的指向アイデンティティの設問にある異性愛者の選択肢に「すなわちゲイ・レズビアン等ではない」という文言を入れることによって SOGI に関する知識のない人でも回答できるようにしているが（Hiramori and Kamano 2020）、本研究でもこのような文言を入れることが高年齢層の回答者にとって効果的であると示された。

これらの結果は回答者の年齢層にかかわらず量的調査で SOGI をたずねる標準的な設問となるガイドラインを確立する上で意義のあるものであると考えられるが、自営業主・

自由業者など現在仕事についている回答者が多く、男性回答者は全員が大卒以上であるなど、本研究には回答者の多様性が担保されていないという点で限界もある。今回実施された認知インタビューの回答者は、高年齢層の中では比較的 SOGI に関する知識があると想定されるため、今後はより幅広い層の回答者を集めて認知インタビューを行い、SOGI を捉える方法や設問を精緻化し、SOGI 設問をたずねる対象年齢についても検討する必要がある。

また、今回得られた結果を認知インタビューの解釈主義アプローチという観点から考察することも求められている。たとえば認知インタビューにおける会話からはおそらくシスジェンダー異性愛者と分類されるであろう回答者が、性的指向アイデンティティとして他者に性愛感情を抱かないアセクシュアルを選択する場合、異性愛回答者がアセクシュアルと誤回答していると捉えるか、高齢になってこれまで知識として持っていたはなかったものの、選択肢にある定義をみて現在アセクシュアルにあてはまると考えて回答しているため、性的指向アイデンティティはアセクシュアルであると捉えるかなど、さまざまな解釈が考えうる。このような結果は、異性に対する明確な性愛感情が薄れがちな高年齢層にとって性的指向アイデンティティの設問が回答しづらいものであることを示唆するものであり、さらなる考察を行うことで既存の性的指向アイデンティティの設問が暗に持つ前提を明らかにすることにもつながるだろう。

高年齢層に対して SOGI 設問をたずねることに関する方法論的研究は国内外ともに限られており、本研究は高年齢層が SOGI 設問に回答する際の認知プロセスを明らかにする一助になると考えられる。また、日本国内では認知インタビューを用いた研究が極めて限られており、認知インタビューの実例とその効用を示すという点でも調査方法論の分野に貢献できると思われる。実際、本研究では SOGI 設問以外でも、就業状況に関する設問で家賃収入があることを理由に「現在仕事についている」と答えている回答者がいた。SOGI 設問のような標準化がすすんでいない設問のみならず、社会調査ですでに広く用いられている設問についても、認知インタビューを行うことには意義があると考えられる。高齢化の進む日本社会において、高年齢層に SOGI 設問をたずねる方法の研究は重要な課題となると予想される。今後とも、調査対象者の年齢にかかわらず用いることのできる SOGI 設問に関する方法論的研究を進め、データを蓄積していくことが重要である。

(2025年3月7日査読終了)

参考文献

- 石井馨子・武村雪絵・市川奈央子・國江慶子・木田亮平（2020）「日本語版組織学習サブプロセス測定尺度の信頼性・妥当性の検証」『日本看護管理学会誌』24巻，1号，pp. 63-71.
- 上田裕也（2024）「高齢期の性的マイノリティ（LGBT）に関するアイデンティティ発達研究の概観——欧米諸国における実証研究のスコーピングレビュー」『京都大学大学院教育学研究科紀要』70巻，pp. 43-56.
- 釜野さおり（2023）「性的マイノリティとエイジング」日本家族社会学会編『家族社会学事典』丸善出版，pp. 584-585.

- 釜野さおり・平森大規・石田仁・岩本健良・小山泰代・千年よしみ・藤井ひろみ・布施香奈・山内昌和・吉仲崇 (2020)『性的指向における「決めたくない・決めていない」の回答を探る——「性的指向・性自認に関する設問の改善に向けた試験的調査」の結果より』『性的指向と性自認の人口学——日本における研究基盤の構築』(代表 釜野さおり)編, 国立社会保障・人口問題研究所 内。
- 盛山和夫 (2004)『社会調査法入門』有斐閣。
- 竹谷英之・白幡聡・酒井道生・徳川多津子・岩崎勝彦・坂下尚孝・正路章子・吉原圭亮 (2023)「日本人血友病患者による身体活動阻害要因評価スケール (Barriers to Being Active Quiz: BBAQ-21) の言語的妥当性の検証」『日本血栓止血学会誌』34巻, 3号, pp. 381-393。
- 轟亮・杉野勇・平沢和司編 (2021)『入門・社会調査法——2ステップで基礎から学ぶ [第4版]』法律文化社。
- 西村圭司 (2022)「日本の性的マイノリティの高齢期における諸課題の整理」『ライフデザイン学研究』18巻, pp. 341-359。
- 平森大規・小山泰代・釜野さおり・千年よしみ・布施香奈・三部倫子・岩本健良・武内今日子・申知燕 (2023)「高年齢層の性的指向・性自認のあり方を量的調査でいかに捉えるか——認知インタビューの分析結果から」『IPSS Working Paper Series』68号, pp. 1-29。
- 藤谷克己・鈴木里砂・田村由美・村田由香・松下博宜 (2022)「多職種連携におけるコラボレーティブ・リーダーシップ評価尺度の信頼性及び妥当性の検証」『文京学院大学保険医療技術学部紀要』15巻, pp. 37-42。
- 松浦佳代・高野歩・森真喜子・Timmons, David (2021)「司法精神看護実践能力測定尺度の日本語翻訳版 (FPNC-J) の開発」『日本看護科学会誌』41巻, pp. 780-786。
- 丸山祥・神保洋平・笹田哲・宮本礼子・ボンジェ ペイター (2021)「作業療法のクリニカルリーズニング評価尺度の開発——内容妥当性の検討」『作業療法』40巻, pp. 784-792。
- 村上由希・今村行雄・三谷智子 (2022)「女子大生を対象とした日本語版 The Depression Anxiety Stress Scales-21 (DASS-21) の信頼性と妥当性の検討」『日本健康医学会雑誌』31巻, 3号, pp. 380-389。
- Carr, D., Boyle, E. H., Cornwell, B., Correll, S., Crosnoe, R., Freese, J., and Waters, M. C. (2021) *The Art and Science of Social Research*, 2nd ed., New York, Norton.
- Fredriksen-Goldsen, K. I. and Kim, H.-J. (2015) “Count Me In: Response to Sexual Orientation Measures among Older Adults,” *Research on Aging*, Vol. 37, No. 5, pp. 464-480.
- Fredriksen-Goldsen, K. I. and Kim, H.-J. (2017) “The Science of Conducting Research With LGBT Older Adults: An Introduction to Aging with Pride: National Health, Aging, and Sexuality/Gender Study (NHAS),” *The Gerontologist*, Vol. 57, No. S1, pp. S1-S14.
- Hiramori, D. and Kamano, S. (2020) “Asking about Sexual Orientation and Gender Identity in Social Surveys in Japan: Findings from the Osaka City Residents’ Survey and Related Preparatory Studies,” *Journal of Population Problems*, Vol. 76, No. 4, pp. 443-466.
- Michaels, S., Milesi, C., Stern, M., Heim Viox, M., Morrison, H., Guerino, P., Dragon, C. N., and Haffer, S. C. (2017) “Improving Measures of Sexual and Gender Identity in English and Spanish to Identify LGBT Older Adults in Surveys,” *LGBT Health*, Vol. 4, No. 6, pp. 412-418.
- Miller, K., Willson, S., Chepp, V., and Padilla J. L. eds. (2014) *Cognitive Interviewing Methodology*, Hoboken, Wiley.
- Neuman, W. Lawrence (2011) *Social Research Methods: Qualitative and Quantitative Approaches*, 7th ed., Boston, Pearson.
- Redford, J. and Van Wagenen, A. (2012) “Measuring Sexual Orientation Identity and Gender Identity in a Self-Administered Survey: Results from Cognitive Research with Older Adults.” Paper presented at the Annual Meeting of the Population Association of America.
<https://paa2012.populationassociation.org/papers/122975> (2025年1月31日最終アクセス)
- Tourangeau, Roger. (1984) “Cognitive Science and Survey Methods,” in Jabine, T., Straf, M., Tanur, J., and Tourangeau, R. (eds.) *Cognitive Aspects of Survey Design: Building a Bridge between Disciplines*, Washington, DC: National Academy Press, pp. 73-100.
- Willis, Gordon B. (2005) *Cognitive Interviewing: A Tool for Improving Questionnaire Design*, Thousand Oaks, Sage Publications.

付録

認知インタビュープロトコル（一部抜粋）

問11（出生時性別）	☐ まず問11の回答を教えてください。 ☐ [回答を確認] あなたの問11の回答は選択肢 X「 」ですね ☐ この設問について、特に難なく答えることができましたか、それとも何か気になる点がありましたか？（どこが引っかかるポイントでしたか？） ☐ この質問が何をたずねているかをご自分自身の言葉を使って表すとどうなりますか？（別にこれはテストとかをしているわけではないので、正しい理解かそうでないかではなく、この質問を見たときに「あなたご自身」がこれは何を聞いている質問だと思ったのか、どういう答えを書けばいいと思ったのかを回答していただければと思います。）
問12（性自認のあり方）	☐ まず問12の回答を教えてください。 ☐ [回答を確認] あなたの問12の回答は選択肢 X「 」ですね（問12が2または3の場合のみ）問12-1の回答は Y「 」ですね ☐ この設問について、特に難なく答えることができましたか、それとも何か気になる点がありましたか？（どこが引っかかるポイントでしたか？） ☐ この質問が何をたずねているかをご自分自身の言葉を使って表すとどうなりますか？ ☐ 問12で X「 」という選択肢を選んでいますが、なぜこの選択肢を選んだのか教えていただけますか？「出生時の性別と同じ」「別の性別だととらえている」「違和感がある」という選択肢は具体的にはどういう状況のことだと思いますか？ ☐ もしかしら自分が今回選ばなかった選択肢に実は自分が当てはまっているかもしれない、と思いましたか？それとも思いませんでしたか（自信を持って回答できましたか）？ ☐ 問12には分岐する箇所がありますが、何か回答する際に戸惑ったりしましたか、それとも特に戸惑いませんでしたか？分岐設問に何か回答しましたか？ ☐ （問12-1に何らかの回答を行っている場合のみ）問12-1で○という選択肢を選びましたが、○という選択肢の具体的なイメージをご自分自身の言葉を使って表すとどうなりますか？ ☐ 国や自治体、大学や研究所によるアンケート調査でこういった設問があったら、その設問に答えるのに抵抗感があると思いますか、それともないと思いますか？（なぜですか？） ☐ 国や自治体、大学や研究所によるアンケート調査でこういった設問があったら、その設問に<u>答える</u>と思いますか？それとも<u>答えない</u>と思いますか？（なぜですか？） ☐ その他、問12について何かコメントしたい点がありますか？
問13（性的指向アイデンティティ）	☐ まず問13の回答を教えてください。 ☐ [回答を確認] あなたの問13の回答は選択肢 X「 」ですね（問13が5の場合のみ）問13-1の回答は Y「 」ですね ☐ この設問について、特に難なく答えることができましたか、それとも何か気になる点がありましたか？（どこが引っかかるポイントでしたか？） ☐ この質問が何をたずねているかをご自分自身の言葉を使って表すとどうなりますか？ ☐ 「異性愛者、すなわちゲイ・レズビアン等ではない [異性のみに性愛感情を抱く人]」というのは具体的にはどういう人のことを指していると思いますか？ ☐ それでは、「ゲイ・レズビアン・同性愛者 [同性のみに性愛感情を抱く人]」「バイセクシュアル・両性愛者 [男女どちらにも性愛感情を抱く人]」「アセクシュア

	ル・無性愛者 [誰に対しても性愛感情を抱かない人]「決めたくない・決めていない」「質問の意味がわからない」というのは、それぞれ具体的にはどういう人のことを指していると思いますか？ ☐ もしかしたら自分が今回選ばなかった選択肢に実は自分が当てはまっているかもしれない、と思いましたか？それとも思いませんでしたか（自信を持って回答できましたか）？ ☐ 選択肢について、何か他にあったほうがよいものはありますか、それとも今のままで問題ないと思いますか？ ☐ 国や自治体、大学や研究所によるアンケート調査でこういった設問があったら、その設問に答えるのに<u>抵抗感</u>があると思いますか、それともないと思いますか？（なぜですか？） ☐ 国や自治体、大学や研究所によるアンケート調査でこういった設問があったら、その設問に<u>答えると思いますか</u>？それとも答えないと思いますか？（なぜですか？） ☐ 問13には分岐する箇所がありますが、何か回答する際に戸惑ったりしましたか、それとも特に戸惑いませんでしたか？分岐設問に何か回答しましたか？ ☐ （問13-1に何らかの回答を行っている場合のみ）問13で「決めたくない・決めていない」を選んだ理由をご自分自身の言葉を使って表すとどうなりますか？ ☐ その他、問13について何かコメントしたい点はありますか？
問14-16（恋愛感情、性愛感情、セックスの経験）	☐ まず問14, 15, 16の回答を教えてください。 ☐ [回答を確認] あなたの問14の回答は選択肢 X「 」で、問15の回答は Y「 」、問16の回答は Z「 」ですね ☐ これらの設問について、特に難なく答えることができましたか、それとも何か気になる点がありましたか？（どこが引っかかるポイントでしたか？） ☐ これらの質問がそれぞれ何をたずねているかをご自分自身の言葉を使って表すとどうなりますか？問14, 15, 16ではたずねている内容は同じだと思いますか、違うと思いますか？ ☐ 問14-16で、それぞれ X、Y、Z という選択肢を選んでいますが、なぜこの選択肢を選んだのか教えていただけますか？他にこれも自分に当てはまるかもしれない、などと迷った選択肢はありましたか？ ☐ 選択肢について、何か他にあったほうがよいものはありますか、それとも今のままで問題ないと思いますか？ ☐ 国や自治体、大学や研究所によるアンケート調査でこういった設問があったら、その設問に答えるのに<u>抵抗感</u>があると思いますか、それともないと思いますか？（なぜですか？） ☐ 国や自治体、大学や研究所によるアンケート調査でこういった設問があったら、その設問に<u>答えると思いますか</u>？それとも答えないと思いますか？（なぜですか？） ☐ その他、問14-16について何かコメントしたい点はありますか？

Asking Older Adults about Sexual Orientation and Gender Identity in Social Surveys: Findings from Cognitive Interviews

HIRAMORI Daiki, KOYAMA Yasuyo, KAMANO Saori, CHITOSE Yoshimi,
FUSE Kana, SAMBE Michiko, TAKEUCHI Kyoko, SHIN Jiyeon, and
IWAMOTO Takeyoshi

In recent years, the growing interest in sexual and gender minorities has led to an increase in methodological studies on how to ask about sexual orientation and gender identity (SOGI) in social surveys. However, limited research has focused on older adults, who may be less familiar with SOGI concepts. In this study, we conducted cognitive interviews with 18 participants aged 60 and older to examine how older adults understand and respond to SOGI questions in social surveys. We found that, although older adults often did not fully understand SOGI terminology, they were less likely to respond incorrectly because of this lack of understanding. In addition, as a phenomenon unique to older adults, we found that some cisgender heterosexual respondents who no longer experience sexual attraction may choose asexual, an identity category for those who do not experience sexual attraction to others, as their sexual orientation identity. Overall, cognitive interviewing was shown to be a useful method for improving questions in social surveys.

keywords: sexual orientation and gender identity, older adults, measurement, cognitive interviews, cognitive aspects of survey methodology